

Sophia English Language Department Alumni Association



A FISH OUT O' WATER

Fr. John Deely, OMI

With the thousands of graduates I've never met, a self-introduction is certainly in order. However, an introduction right off the bat wouldn't be very interesting right now would it? So, what I think I'll do is weave that introduction into my HELLOs ... yes, my HELLOs to the hundreds of students who participated in my courses over that 11 year span from '78 to '89.

How are you all doing? Very happy and in good health, I hope. And by now, quite adept at dealing with life's ordeals, I'm sure.

Tell the truth now and shame the devil. Would you have recognized me by this photo, if my name hadn't appeared next to it? Of course, the gray hairs are more numerous now and the jowls are more pronounced! And, oh yes, thank goodness that fish is where it is... obstructing your view of the excess baggage about my belt and belly! A clear view (or, maybe I should say, a side view) of that spare-tire would shock you into disbelief, believe me!

Otherwise, I'm doing fine, thank you. It's wonderful being back on campus. I must admit, though, that in April after a 6 year absence, I did feel like the proverbial fish out of water. At the College for the Deaf, it was Japanese Sign Language round-the-clock for me. I would go days on end without using the ole vocal chords... very little speaking for me since I always signed to the deaf students in traditional signs (which means no voicing)... and... very little spoken English since I taught them English through American Sign Language. In fact, in refraining from speech, I may have lost that Philadelphia twang of mine which caused so many of you headaches!

That was in April. But, thanks to the faculty members and the students (who have finally realized that my gestures and hand movements are the result of years of 'signing' and not some mental disorder), I now feel right at home... back in the water again, as it were.

The courses may be different - I don't have Translation, Speech, American Literature, or American Education anymore - but the challenge from the students is the same, no matter what the course. And (I'm happy to report), the challenge of trying to meet the needs of the students is still, even at my age, more exhilarating than exhausting! The real treat, I might add, comes in engaging the students in discussion. That's when I learn so much from them, as I did from you (some of you). SMILE! As you can see, I haven't lost my love for needling and teasing! In all seriousness, I often wonder with Barry (the Balladeer) Manilow 'Where Are They Now' ... Where are you now? Let me hear from you.

Oh, one more thing. I still have that black attaché case which was the butt of many a joke. Unfortunately, in recent months, it's gotten too heavy for me. I guess I threw my back out in July while I was trying to bag that other, much larger tuna that got away! But that's another whale of a tale... which I will gladly share with you if you give me a call!

Take care and continued good luck.

「40代でみる夢」

神奈川県教育委員会指導主事 蔵田 實 (昭和48年卒)



英語学科を卒業後、中央大学で国史学を専攻し、昭和51年に神奈川県立市ヶ尾高校に赴任しました。その後、鎌倉高校に転勤し、神奈川県の姉妹校であるアメリカのウイットマン高校・アインシュタイン高校で教鞭をとり、5年前から教育委員会勤務を命ぜられました。教職から行政職へとコペルニクスの転換であり、同和教育・図書館教育・帰国子女教育など、あまり経験のない担当をいくつも抱え、ほとんど休日ぬきの生活が続きました。また夏には、部落開放同盟の東日本研究集会で水上へ、学校図書館協議会の研修会で伊勢原へ、専修学校全国大会で仙台へと出張が待ち受けており、それぞれの出張先では教育委員会としての見解あるいは指導・助言を求められることもあり、そのためには膨大な資料を事前に咀嚼しておかなければならず、生徒とバレーボールで汗を流していた教員時代の“夏休み”とは縁遠い日々を送ってきました。

それ以上に責任ある仕事として任されたのが英語教育です。平成元年度に学習指導要領が改訂され、英語

教育においてはコミュニケーション能力の育成が大きな課題となっていました。これを改善していくため、3つの目標を立て、他方面の協力を得ながらこの実現に取り組んできました。

1 Native speaker of Englishを英語指導助手として、県立高校166校すべてに配置する。

2 英語指導助手を指導・監督する専任の指導主事として、外国語担当指導主事を増員する。

昨年なんとか全校配置計画が完了し、今年ようやく指導主事を増員することができました。残る最後の目標が、高校入学者選抜試験の英語にリスニングテストを導入することでした。リスニングテストは、北海道・東京・神奈川・愛知を除いて、すでに全国的に実施されています。神奈川県はいろいろな事情で実施していなかったのですが、今年の入学者選抜でようやくリスニングテストの試行にこぎつきました。この試行結果を踏まえ、来年の2月に本格実施する計画で、現在準備を進めているところです。

これから春までリスニングテストの夢ばかり見ることになるでしょうが、神奈川県の英語教育を少しでも改善できればとの思いで、微力ながら努力しています。県内の英語学科卒業生諸氏のご助力、ご鞭撻を期待しています。

「幸福感はプラス成長」

小説家・作曲家 たくきよしみつ (鐺木能光・昭和53年卒)



今年、40歳になりました、数えてみると、上智に入るまでと卒業してからの人生がちょうど同じ18年間です。4年生の時はみんな就職活動でキャンパスから消えてしまいましたから、英語学科での学生生活というのは実質3年間くらいしかなかったことになります。

はなから就職などする気がなかった僕にとって、4年生になってクラスメイトが激変したのはショックでした。昨日まで学食で哲学論争を繰り広げていた相手の女の子が、4年生になると「お見合いしちゃった」と言って、さっさと結婚を決めたり、学生運動に明け暮れていた男の子が、髪と髭を切ってスーツ姿で「ショーじよりスミショー、ブッサンのほうが将来性は……」なんて会話をするようになったりで、呆然としました。

大学時代が、時とともに切なく懐かしくなるのはなぜでしょうね。もっとああすればよかった、なぜあんなことしたのだろう……という後悔ばかりです。

僕は今、売れない小説家をしています。37歳からジャズギターをイチから学び始めて、今年はギターデュオによるフュージョンのCD(インディーズ)を作ったりもしました。

不況はもちろん自由業の身にも給料取り以上に厳しくのしかかっていますが、経済はマイナス成長、精神文化と幸福感はプラス成長……というのが最近のテーマなので、愚痴を言うつもりはありません。

死ぬまでに、自分が納得できる小説を10冊、音楽アルバム(CD)を10枚残すことが目標です。小説は5冊出したうちの4冊は自分でも納得しているし、つまらないCDは出さなかつもりなので、あと小説6冊、CD8枚ですね。

最後に宣伝。10月にエッセイ単行本『狸と五線譜～ボンボコライフ雑記帖』(三交社)、11月に長編ミステリー書き下ろし単行本『フィリップの祈り(仮題)』(廣済堂出版)が出ます。どうぞよろしく。

「まほうの海賊船にのって、 金のどんぐりをさがしに、 しゅっぱーつ！」

日経国際ニュースセンター勤務 笹山裕子(平成2年卒)



去年の夏から冬にかけて、学生時代からの夢だった児童文学の翻訳に挑戦する機会に恵まれました。エミリーという小さな女の子が弟のジャックと一緒に、海賊船に変身した大好きな木の木にのって、冒険に出かけるというイギリスの絵本です。

カラフルな絵に、わくわくするような冒険。大喜びで翻訳にとりかかったのですが、いざ実際に日本語を書いてみると、想像以上に難しいことだらけでした。絵本という言葉が少なく、やさしい感じがするのですが、それだけにひとつひとつの言葉の役割が大きく、これという表現が思いつかずに頭を悩ますことの連続でした。

机の上で原稿とにらめっこしていても、お話の楽しい雰囲気は出せないと、実際に大きな木を探して公園を歩き回ったり、海に出かけて船にのったりもしました。編集の方がつきっきりで、声に出して読んでみたり、言葉を吟味したりという作業に付き合ってくださいってできあがったのが、今年の1月、徳間書店から出版された『エミリーときんのどんぐり』です。

出版された直後は、あちこちの本屋さんを回っては自分の本を搜しました。何よりも嬉しかったのは、今までにお世話になった先生方やまわりの皆さんに喜んで頂けたことです。

10月には、一緒に船にのってくれた人と結婚することになりました。(相手が海賊じゃないのが少し残念ですが。)これからも勉強を続けて、元気が出るような楽しいお話を日本に紹介していけたら、そしていつか孫でもできたら、自分が訳した本を読んできかせたい、そう思っています。

「国連世界女性会議を取材して」

TVディレクター 田中麻由美(昭和62年卒)



卒業してから8年。現在、NHKの衛星放送の番組を制作しています。5年前、「ジャパン・ビジネス・トゥデイ」という欧米向け経済ニュースから、テレビ番組の仕事に携わるようになりました。今は衛星放送の特集番組を企画・制作するチームに所属しています。

この1年に「アジア経済新潮流」「世界の衛星放送事情」「人口爆発」「阪神大震災」などの番組を手掛けました。情報の最前線に身をおいて、様々な文化や人間模様に触れることができ、刺激のある仕事です。ただテーマが社会問題から経済に至るまで、多岐にわたるので、常に勉強の必要性を感じます。

8月の終わりには「北京の熱い17日～国連世界女性会議～」という2時間番組のため、2週間ほど北京に滞在しました。女性の視点から経済開発や人権問題を見直そうという会議で、185ヶ国からおよそ3万5千人の女性が集まり、文字通り“熱い”17日間でした。

会議では経済成長の陰で、女性の貧困層が急速に拡大していることや、ボスニアなど多発する民族紛争の中で性的な暴力が絶えない現状が、各地から次々と報告されました。

とりわけ暴力を受けた女性被害者が証言する「女性の人権法廷」はショッキングでした。「ある朝、兵士5人が銃を持って、家に突然入ってきました。家族6人、壁に向いて並ばされ、私の目の前で次々と撃ち殺されました。かろうじて父は命が助かりました。すると兵士は『おまえの父親の前でいいことをしてやる』と言いました。私は父親の目の前で兵士たちにレイプされたのです。その後、兵士は父の頭を銃で撃ちました。父は『おまえに神様の助けがあるように』と言って息を引き取りました」。こう語ったパレスチナ難民の女性が泣き崩れたとき、私も震えが止まりませんでした。

またアジアの多くの人達が「日本のような経済発展の仕方はお手本にたくない」と指摘したことも印象に残りました。経済的に豊かな日本には、就職を始めとしてまだまだ女性差別が根深いからだそうです。

女性会議ではNGO(非政府組織)の人達が自国の問題を訴えるため、連日300を超すワークショップを開いていました。こうした「草の根パワー」を目の当たりにし、私も自分の生き方や生活を閉ざされたものでなく、世界とのつながりの中で考え、常に「行動」していくことが大切であると改めて感じました。貧困や暴力の問題は発展途上国特有の問題ではなく、日本も政治、経済面で大きく影響を与えており、日本人としての姿勢も問われていると思います。

私生活では今年の春、結婚しました。家庭に、仕事に頑張りたいと思っています。



英語学科卒業生が著した本・CD

英語学科卒業生もすでに5,000名を越え、各業界、各地で活躍しています。その一端として、卒業生が著作、翻訳した本を、順次紹介いたします。

<小説>

「プラネタリウムの空」 たくきよしみつ著(昭和53年卒) マガジンハウス (8センチCD付き)

オリジナル音楽6曲が付属した、世界初のCDノベル。3組の30代夫婦が織りなす、現代の恋愛事情。

「マリアの父親」 たくきよしみつ著(昭和53年卒) 集英社

第4回「小説すばる」新人賞作。選考委員・田辺聖子氏絶賛。五木寛之氏は「久々に志のある作品に出会った」と推薦。

魚の活け造りができなくて、板前修業を諦めたナイーブな青年「てっちゃん」、不思議な色気を漂わせる美少女「マリア」、そしてマリアの保護者代わりの天才科学者「デンチ」の3人が繰り広げる不思議な道中記。地球への恋愛小説。はたして「マリアの父親」とは何者なのか?

<著作>

「実力主義への人事革新」 重田孝夫著(昭和53年卒) 日本経済新聞社

「日本外交と中国1945～1972」 添谷芳秀著(昭和54年卒) 慶応通信

<翻訳>

「おそれずに人生を～エイズ患者からのメッセージ」(ビリー・ハワード著)

飼牛万里訳(昭和45年卒) 講談社

「ヒトの再発見～独創する科学者11人が語る」(トマス・A・バス著)

茅野美ど里訳(昭和52年卒) 三田出版会

私たちはどんな明日を迎えるか。性、エイズ、薬、精神病、遺伝子、地球、脳、進化～科学の様々な視点から、人類とその未来を見つめ直すインタビュー集です。

「赤毛のアン」上・下(L.M.モンゴメリ著) 茅野美ど里訳(昭和52年卒) 偕成社文庫

「秘密の花園」上・下(F.バーネット著) 茅野美ど里訳(昭和52年卒) 偕成社文庫

<CD>

「メイク・ミー・レインボウズ」 金丸正城(昭和47年卒) キングレコード

モダンジャズのCDです。ジャズファンの方、一度聴いてみましょう。

SELDAA女性セミナー

女性セミナーも昨年10周年を迎え、これを機に世話役も、長年御尽力くださった鈴木さん、吉田さんから49年卒の私共が引き継ぎました。初めてのことでばかりで暗中模索の状態ですが、より良いセミナーを目指して私達なりに努力いたす所存です。皆様のご協力をよろしく願いたします。またご意見、ご提案、お問い合わせ等は、世話人までお申し出ください。

現在は、学内外から講師の先生方をお招きし、毎回個別のテーマでlectureをしていただいております。

9月27日(水) 垣ヶ原美枝先生(演劇通訳、翻訳家)

"演劇通訳の現場から"

10月25日(水) 吉田研作先生(英語学科長)

"motivation"

11月22日(水) Fr. F. Britto(英語学科助教授)

"カルトと宗教(予定)"

12月13日(水) Lacktorin, 井上久美先生(英語学科助教授)

"国際化時代の(異文化間)コミュニケーション教育"

日時; 原則として毎月第4水曜日

午前10:30～12:00

場所; かつらぎ館地下ホール

会費; 3,000円/年 又は 500円/回のみ

連絡先/世話人

49年卒 日岡久美子 03-3775-8988

渡辺まかや 045-361-4221

会計/三好比呂子 03-3348-0285

視野を広げたい方、英語でのlectureが懐かしい方、ぜひ一度久しぶりの母校へいらしてみませんか……。学期途中からでも、1回だけの参加も可能です。英語学科以外の卒業生の方も、お待ちしております。

■1995年度定例総会報告■

1995年度SELDAA定例総会が今年もオール・ソフィアンズ・デーに合わせて、5月28日13時30分より上智大学7号館第6会議室にて開催されました。

総会ではまず、議長に関浩一(昭和39年卒)、書記に東郷公德事務局長(昭和62年卒)を選出。引き続き1994年度決算報告及び1995年度予算案について、会計担当の栗原美輝(昭和57年卒)より報告、説明がなされ、それぞれが承認されました。その後、新会長に座間由美子氏(昭和43年卒)が選出されました。また新監査役として菊谷秀子氏(昭和43年卒)、井坂由美子氏(昭和47年卒)が推薦され、承認されました。その他の議題として、2万円一括支払いによる終身会員制度を、従来の、あるいは数年ごとの会費納入方法と平行して導入することが提案され、承認されました。さらに会報編集の現状について佐藤誠一郎(昭和53年卒)より、また野口基金をもとにした新しい奨学金制度(現在計画が進行中)について、吉田研作(昭和47年卒)よりそれぞれ報告、説明がなされました。

その後はその場で飲み物と軽食を前に、エヴァレット先生をはじめ、数名の先生方を囲んでのパーティーとなりました。30数名の参加者で狭い会議室は満員でしたが、一同久しぶりの母校での楽しい午後のひとときを過ごしました。来年は、より多くの方のご参加を期待しております。

●SELDAA常任委員 (平成7年9月現在)

名誉会長／吉田研作(昭和47年卒)

会長／座間由美子(昭和43年卒)

副会長・事務局長／東郷公德(昭和62年卒)

副会長／池沢なるみ(昭和48年卒)

会計／竹内り子(昭和48年卒)

会報／佐藤誠一郎(昭和53年卒) 鈴木達也(昭和38年卒)

関浩一(昭和39年卒) 増田光(昭和59年卒)

斎藤敬子(昭和48年卒) 小林修(昭和39年卒)

井波明夫(昭和39年卒) 石川雅弥(昭和40年卒)

斎藤由美(昭和62年卒) 大日方聖信(昭和62年卒)

女性セミナー／安西徳子(昭和49年卒)

監査／菊谷秀子(昭和43年卒) 井坂由美子(昭和47年卒)

<新会長の挨拶>



座間由美子(昭和43年卒)

SELDAAも発足以来10年が過ぎて、今度は女性会員の中から会長を選ぼうという話になり、思いがけなくも私がお引き受けすることになりました。常任委員会のメンバーも若返って、いろいろ新しい企画も検討中です。これを機会に、若い卒業生の方たちも、SELDAAの活動に積極的に参加して下さることを期待しています。何かと至らない点があるかと思いますが、会員の皆様の掛け橋となるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくご協力の程、お願い申し上げます。

現在の英語学科主専攻科目 (1995年度休講科目を除く)

1年次 英語 必修科目

イングリッシュ・スキルズ

英文学Ⅰ

英作文Ⅰ

2年次 英語 必修科目

英会話

英文学Ⅱ

1・2年次 専門研究 選択必修科目

アメリカ研究入門

米国社会入門

英文学入門

英国研究入門

言語習得入門

心理言語学入門

異文化コミュニケーション入門

英語と言語類型Ⅰ・Ⅱ

英語音声学入門

3年次 英語 必修科目

英語学(和英訳)

3年次 英語 選択必修科目

英会話Ⅱ

英語スピーチ

英作文Ⅱ

リーディング・スキルズ

4年次 英語 選択必修科目

英語表現法

専門研究 選択科目

I アメリカ研究

アメリカ現代史・講読

米国現代文学Ⅰ

米国史概論

米国思想史Ⅰ・Ⅱ

米・ラテンアメリカ間関係史

アメリカ政治論Ⅰ・Ⅱ

カナダ史概論

カナダ文化と社会

アメリカ音楽史Ⅱ

アメリカ演劇映画論

アメリカ演劇論

アメリカ広告文化論

企業広報論

アメリカの法律と国民

日米社会比較

米国社会論Ⅰ・Ⅱ

米国社会問題Ⅰ・Ⅱ

アメリカ社会特講Ⅱ

演習・米社会史

演習・米現代文学

II 英国・英語文化圏研究

英国事情・講読

英文学・講読

英国研究・朗読Ⅰ・Ⅱ

英国史

英国思想

イギリス研究Ⅰ・Ⅱ

英国研究Ⅰ・Ⅱ

英国社会A・B

英文学研究Ⅰ・Ⅱ

現代英文学

英文学特講

アイルランド研究Ⅰ・Ⅱ

オーストラリア・NZ研究

オーストラリア社会Ⅰ・Ⅱ

インド社会

III 言語・コミュニケーション研究

→言語学副専攻

時事英語・講読

英語科教育法ⅠA・ⅡB

英語科教育法Ⅱ

バイリンガル教育

古英語入門Ⅰ・Ⅱ

英語文章論

英文法

英語語用論と意味

英語史Ⅰ・Ⅱ

英語音声学

言語プログラミングⅠ・Ⅱ

通訳入門Ⅰ・Ⅱ

英語音声学

言語プログラミングⅠ・Ⅱ

通訳入門Ⅰ・Ⅱ

異文化交渉と英語

商業英語入門Ⅰ・Ⅱ

商業英語

商業英語(応用)

秘書英語Ⅰ・Ⅱ

英文遠記入門Ⅰ・Ⅱ

英文遠記中級

英文遠記上級

英語学特殊講義

演習・異文化間コミュニケーション

演習・言語社会学

IV 国際関係研究

→国際関係副専攻科目

V アジア文化研究

→アジア文化副専攻科目

[卒業論文および翻訳]

卒業論文

卒業翻訳

<決算・予算に関する報告> 1994年度決算及び1995年度予算が1995年5月28日に開かれた総会において承認されました。

収支決算額 7,704,708円 / 支出決算額 2,919,337円 / 次期繰越金 4,785,371円

1994年度上智大学英語学科同窓会収支決算書 自1994年4月1日 至1995年3月31日 (単位:円)

科目	予算	決算	備考
収入			
1 前期よりの繰り越し	4,896,155	4,896,155	1993年度より繰り入れ
2 入会金	100,000	104,000	1,000円×104人
3 会費	2,600,000	2,586,000	2,000円×1,293口
4 受取利息	110,000	118,553	普通預金・郵便貯金・債券等
5 雑収入	0	0	
合計	7,706,155	7,704,708	
支出			
1 名簿作成積立金	500,000	500,000	1994年度発行
2 名簿作成準備金	100,000	27,000	不明者リスト
3 会報作成	750,000	683,368	会報18号・19号
4 会報発送料	740,000	754,990	会報18号・19号
5 会報発送料	80,000	88,453	会報18号・19号
6 パーティー補助金	100,000	24,127	総会後パーティー
7 女性セミナー	110,000	110,000	講師への贈礼等
8 常任委員会運営費	50,000	27,400	総会・常任委員会会費
9 事務処理費	370,000	447,569	封筒・捺込用紙印刷・宛名ラベル
10 BFT購読運営費	200,000	59,544	購読文通費・文書費・購読記録等
11 講演会	50,000	0	
12 予備費	4,656,155	186,866	常任委員会会費費補助
合計	7,706,155	2,919,337	
差引収支		4,785,371	1995年度に繰り越し

1995年度上智大学英語学科同窓会予算 自1995年4月1日 至1996年3月31日 (単位:円)

科目	予算	備考
収入		
1 前期よりの繰り越し	4,785,371	1994年度より繰り入れ
2 入会金	100,000	1,000円×100人
3 会費	2,600,000	2,000円×1,300口
4 受取利息	110,000	普通預金・郵便貯金・債券等
5 雑収入	0	
合計	7,595,371	
支出		
1 名簿作成積立金	600,000	1997年度発行
2 名簿作成準備金	50,000	組み直し等準備費
3 会報作成	750,000	会報20号・21号発行
4 会報発送料	800,000	会報20号・21号分
5 会報発送料	90,000	会報20号・21号封入・届出し
6 パーティー補助金	100,000	総会後パーティー
7 女性セミナー	150,000	講師への贈礼等
8 常任委員会運営費	200,000	総会・常任委員会会費
9 事務処理費	400,000	封筒・捺込用紙印刷・宛名ラベル
10 寄付講座	640,000	1994年度寄付講座
11 予備費	3,815,371	
合計	7,595,371	

●異動通知にご協力ください。

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科事務局かソフィア会にお知らせください。また住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。皆様のご協力をお願いいたします。

SELDAAより、募集とお知らせ

- SELDAAでは卒業生の方より、この会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、なんでも結構です。原稿に写真を添えて、あるいは同封の葉書にご記入の上、お送りください。
- OB、OGによる趣味のサークルメンバーを募ります。グルメの会、ハイキングの会など、現在活動しているものから、これから設立を考えているものまで、何かございましたらご一報ください。
- この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡お待ちしております。

上記に関するご応募・お問い合わせは、お気軽にどうぞ。

連絡先; 英語学科事務局 東郷公德まで TEL.03-3238-3719 FAX.03-3238-3910

—会費お支払いのお願い—

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費で運営されています。事務局一同は、より一層の活動内容の充実と拡大を図っていく所存です。同窓会の円滑な運営のため、まだ会費の未納の方は、同封の振替用紙で最寄りの郵便局、又は銀行より是非お支払いいただくようお願いいたします。その際、卒業年度とソフィア会会員NO.を記入してください。卒業年がありませんと、帳簿記入の事務処理がはかどりません。

なお今まで一度も会費をお支払いいただいていない方は、入会金も合わせてお支払い願います。

入会金:1,000円 / 年会費:2,000円(できれば3年分まとめて)

<会費お支払い状況>

封筒に添付してある宛名ラベルの右上部をご覧ください。
 朱書きの数字は、'95年度以降、その年度分までの会費が支払われている。
 数字の後に(1)とあるのは、その年度は年会費の1/2(1,000円のみ)が支払われている、
 朱書きで"入"とあれば、入会金は支払われているが、'95年分の会費が支払われていない、
 「朱書きのない」のは、今まで一度も入会金も会費も支払われていないことをそれぞれ表わしています。

●終身会員制度導入のお知らせ●

本年度より終身会員制度を導入することが、5月28日の定例総会で承認されました。終身会員になることを希望される方は、同封の捺込用紙にて2万円をお支払いください。(今まで一度も会費をお支払いいただいていない方は、入会金も併せてお支払い願います)。それによって、その後は毎年の会費納入が免除され、3年ごとの同窓会名簿の送付等、SELDAAのサービスを継続的に受けることができます。つい郵便局や銀行に出向くのが億劫になって会費を滞納されている皆さん、是非この機会に終身会員になられてはいかがでしょうか。滞納分については不問に付すという非常に寛大な制度です。SELDAAの資金は寄付講座等を通して現役学生たちのためにも大いに役立てられています。同窓会活動のさらなる充実発展のためにも、この新制度を通してのSELDAAの収入増加計画にご協力ください。

事務局長